

下水道の最新情報をお届けします！

発行日：2017. 4. 17

下水道機構の『新技術情報』 第280号

(公財) 日本下水道新技術機構 <http://www.jiwet.or.jp/>

。○。○。○。

水に関する小話。先日、静岡銀行へ行ったところ大河ドラマ「おんな城主 直虎」の大きなポスターが貼られていましたので、調べてみました。「静岡県浜松市 浜名湖のあたりは遠江と呼ばれた場所で湖の北に位置する井伊谷で直虎は生まれた。井伊谷城には井戸が残されていてここから井伊氏の初代・井伊共保が生まれたという伝説がある。」なのだそうです。ドラマでも井戸のシーンがよくありますね。

それでは機構メールマガジン『新技術情報』第280号をお届けします。

業務に、Tea Break にどうぞご活用ください。

◆◆◆トピックス◆◆◆

■インフォメーション

・4月の技術サロンは、東京都下水道局計画調整部技術開発課長 大塚文昭氏をお迎えして開催しました

■機構の動き

・今週は、行事予定はありません

■Tea Break

・家族継続計画 (FCP) (研究第一部 Y. Hさんからの投稿です)

■まる子のゆいまーる♪

・今回のゆいまーるは

(1)4/1 付人事異動による新職員紹介

(2) 機構OBの関西在住Tさんから桜情報！

をお届けします♪

■国からの情報

・4/14 付下水道ホットインフォメーション

。○。○。○。

インフォメーション (最新の話です)

●4月の技術サロンは、東京都下水道局計画調整部技術開発課長 大塚文昭氏をお迎えして開催しました

今回のテーマは『技術開発推進計画 2016』～未来（あす）の暮らしと環境を育む下水道技術～でした。大塚氏は平成6年に東京都下水道局中部建設事務所設計課に入庁され、平成23年に下水道局第一基幹施設再構築事務所設計課長、中部下水道事務所建設課長を歴任後、日本下水道事業団への出向を経て、平成28年に現職の計画調整部技術開発課長に着任されご活躍されています。

講演内容は、「経営計画 2016」の概要、特徴にはじまり、「技術開発推進計画 2016」の位置付けや策定に至った背景、技術開発の事例、技術開発手法や開発テーマの取り組み内容などについてご講演いただきました。技術開発手法の取り組みについては、オープンイノベーションを推進し、砂町水再生センター内に併設されている“下水道技術研究開発センター”の有効活用や民間企業との共同研究の活性化など、下水道界の技術向上を目指した取り組みを行っているとのことでした。また開発テーマについては、「経営計画 2016」の主な施策との関連性を踏まえた分類がされており、今後5年間に取り組む主なテーマについてご講演いただきました。未来へ良好な水環境を伝えていくための東京都ならではの先進的な取り組みが盛り込まれており、大変興味深いご講演でした。

さて、次回のサロンは、5月11日（木）16:00から17:00での開催となります。ゲストは横浜市環境創造局下水道事業マネジメント課長 遠藤 賢也氏をお迎えして、「横浜下水道の今後の取組について」をテーマに開催します。多数の皆様のご参加をお待ちしております！お申し込みは機構ホームページから

<http://www.jiwet.or.jp/trainings/tech-salon/salon2-form>

。○○。

機構の動き （機構の行事予定です）

。○○。

○行 事：第359回技術サロン

場 所：機構8階 中会議室

日 時：平成29年5月11日（木）16:00～17:00

ゲスト：横浜市環境創造局 下水道計画調整部

下水道事業マネジメント課長 遠藤賢也 氏

テーマ：『横浜下水道の今後の取組について』

※お申込みはこちら

→ <http://www.jiwet.or.jp/trainings/tech-salon/salon2-form>

。○○。

Tea Break （機構職員の感じるまま）

。○○。

●家族継続計画（FCP）（研究第一部 Y. Hさんからの投稿です）

現在、下水道 BCP の業務を携わっていますが、我が身に置き換えてみると地震等の大規模災害時（またはミサイルが飛んできたとき）に自分自身が何をすべきか曖昧であることに気づきました。もちろん仕事も大事ですが、いざという時、やはり家族が一番に気になる場所です。調べてみると、事業継続計画（BCP=Business Continuity Plan）の家庭版で、家族継続計画（FCP=Family Continuity Plan）という言葉があるようです。そこで FCP について週末に話し合ってみました。

まずは緊急連絡体制ですが、普段から SNS を使っていないので、携帯電話と携帯メール、PC メール の 3 種類を使い分けるようルールを決めました。また、平日昼間発災時の優先事項として、保育園への子供のお迎えがありますが、夫婦共に帰宅困難者になった場合を考えて、ご近所の方（ママ友）に、あらかじめ協力をお願いすることとしました。

これまで保存食を買って何となく満足していましたが、実効性のある防災計画を考えていきたいところです。

。。。。

まる子のゆいまーる （皆様との交流の場です）

。。。。

●今回のゆいまーるは

(1) 4/1 付人事異動による新職員紹介

→ <http://www.jiwet.or.jp/publicity/yuimaru/2017-4-17>

(2) 機構 0B の関西在住 T さんから桜情報！

→ <http://www.jiwet.or.jp/publicity/yuimaru/2017-4-17-2>

!(^^)!皆さまからの情報提供をお待ちしております(^_^)

提供はこちらまで→ jiwet@jiwet.or.jp

※テキストは原則 400 字以内。写真等は A 4 版にして原則 2 ページ以内。

なお、お寄せいただいた情報はそのまま掲載することを基本としますが、

掲載の可否は機構にて判断させていただきます。

↓コチラからは、国からの下水道ホットインフォメーションを掲載しています。

=====

下水道ホットインフォメーション（2017.4.14 付 国からの最新情報です）

送信元：国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部下水道事業課企画専門官 堂蘭洋昭

=====

熊本地震から今日で丸 1 年が経ちました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。私自身も発災直後に熊本に入り、政令市の 1 次調査隊に加えていただきまし

たが、被災された自治体の皆さんや関係者の皆さんが不眠不休で対応に当たられていたこと、また、全国から多くの下水道関係者の皆さんが駆けつけて懸命に支援にあたられていたことが強く印象に残っています。

先日も熊本を訪れましたが、ブルーシートで屋根を覆った家が依然として多く見受けられるなど、震災前の生活に戻るにはまだまだ多くの時間が必要と感じました。一日も早い復興を心よりお祈りいたします。

今日の午後、国交省で全国下水道主管課長会議が開催されました。都道府県、政令市、関係団体等から 200 名を超える方々が参加し、下水道行政に関する最新の動向、地方公共団体の先進的な取組等の共有がなされました。今日の会議が関係する皆様によりよい事業展開につながることを期待したいと思います。

★★★★★ 今週のヘッドライン ☆☆☆☆☆

○下水道発食材の愛称を「じゅんかん育ち」に決定！（流域管理官）

○平成 29 年度 B-DASH プロジェクトとして 6 技術の実証を行います。（下水道企画課）

○活性汚泥微生物「奇跡の一枚」大募集！（GKPとNPO21世紀水倶楽部）

=====

○下水道発食材の愛称を「じゅんかん育ち」に決定！（流域管理官）

下水処理の過程で発生する汚泥には、肥料に欠かせないリンや窒素を含有しており、下水汚泥を発酵して肥料を作り、農家に安価で提供することが可能です。そのため、国土交通省では、下水道資源（再生水、汚泥、熱、二酸化炭素等）を農作物の栽培等に有効利用し、農業等の生産性向上に貢献する取組を「BISTRO下水道」と称して推進しています。

一方で、下水道発食材（下水道資源を有効利用して作られた食材）の普及に向けては、下水道に対する印象面が課題となっていました。このため、GKPと連携し、「BISTRO下水道」の広報活動の一環として、下水道発食材について、「イメージ向上に資するとともに、国民に親しまれやすい」愛称の公募を行い、「BISTRO下水道ネーミングコンテスト審査会」の審査を経て、833点の応募作品の中から愛称を「じゅんかん育ち」に決定しました。国土交通省では、今後、下水道資源を農作物の栽培等に有効利用する取組を進めている関係者と連携し、下水道発食材の愛称「じゅんかん育ち」を浸透させ、下水道資源の有効利用に関する安全・安心や取組への理解促進を図り、さらなる下水道資源の有効利用に取り組んでいきます。

詳細は以下 HP をご確認ください。

■国土交通省記者発表資料

(http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo13_hh_000334.html)

■愛称の公募結果や審査会の詳細：GKP HP (<http://www.gk-p.jp/bistro.html>)

○平成 29 年度 B-DASH プロジェクトとして 6 技術の実証を行います。(下水道企画課)
国土交通省は、地方公共団体の下水道施設において、国が主体となって革新的技術の実証を行う

「下水道革新的技術実証事業 (B-DASH プロジェクト)」として、平成 29 年度に実規模実証及び FS 調査を実施する事業として、以下の 6 技術 (うち 3 技術は FS 調査) を採択しましたので、お知らせいたします。

詳細は以下のホームページをご確認ください。

<http://www.mlit.go.jp/report/press/index.html>

<実規模実証>

募集テーマ：汚泥消化技術を用いた地産地消型エネルギーシステムの構築に向けた低コストなバイオマス活用技術

「高効率消化システムによる地産地消エネルギー活用技術の実用化に関する実証事業」

募集テーマ：省エネ社会の実現に向けた低コストな地球温暖化対策型汚泥焼却技術

「温室効果ガス削減を考慮した発電型汚泥焼却技術の実用化に関する実証事業」

募集テーマ：既設改造で省エネ・低コストに処理能力 (量・質) を向上する技術

「最終沈殿池の処理能力向上技術実証事業」

<FS 調査>

募集テーマ：下水道で地域バイオマスや資源を利活用する技術

「稲わらと下水汚泥の高濃度混合高温消化と炭化を核とした地域内循環システムに関する調査事業」

募集テーマ：標準法並みのエネルギーで高度処理を実現する技術

「アナモックス細菌を用いた省エネルギー型下水高度処理技術の実用化に関する調査事業」

募集テーマ：新たな手法を活用した余剰汚泥減容化技術

「高圧ジェット装置を導入した高度処理における余剰汚泥の減容化」

なお、これまでの技術実証の概要やガイドラインは、国土交通省ホームページに掲載しております。

http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewerage/mizukokudo_sewerage_tk_000450.html

○活性汚泥微生物「奇跡の一枚」大募集！ (GKPとNPO21世紀水倶楽部)

下水道広報プラットホーム (GKP) と NPO21 世紀水倶楽部は、活性汚泥微生物の群生、捕食、分裂などの美しい姿や滅多に見られない珍しい瞬間をとらえた「奇跡の一枚」を募集します。下水道の“主役”微生物のユニークな外観や動きは、下水処理を楽しく伝える素材として大変貴重です。

皆さまから寄せられた作品はインターネット上で公開するほか、21 世紀水倶楽部や GKP による下水道の広報活動にも活用させていただく予定です。既発表のものでもかまいません。特に貴重と認められる応募には図書券 5 千円分を贈呈させていただきます。

きます。下記のサイトで詳細をご確認の上、ふるってご応募ください。
受付の都合上、メールでお送りくださるようお願い致します。

【活性汚泥微生物「奇跡の一枚」大募集のサイト】

<http://www.21water.jp/kassei/>

【参考情報】

◆東京都、下水処理省エネで新計画 2030年度に温暖化ガス30%削減〈3/30 日本経済新聞〉

http://www.nikkei.com/article/DGXLASFB29H1X_Z20C17A3L83000/

◆東京都が「アースプラン2017」を策定、下水道事業の新たな温暖化防止計画〈3/31 スマートジャパン〉

<http://www.itmedia.co.jp/smartjapan/articles/1703/31/news048.html>

◆博多駅前 道路陥没最終報告 安全対策さらに徹底せよ〈4/2 西日本新聞〉

<https://www.nishinippon.co.jp/nnp/syasetu/article/318827>

◆下水処理場の地域バイオマス利活用マニュアル、国交省が策定〈4/5 スマートジャパン〉

<http://www.itmedia.co.jp/smartjapan/articles/1704/05/news033.html>

◆下水処理場で未知の巨大ウイルス発見 宿主の遺伝情報を取り込んで進化？〈4/12 ハザードラボ〉

<http://www.hazardlab.jp/know/topics/detail/1/9/19753.html>